



第7期鳥羽少年探偵団報告書



19年度



指令：保険事業発展の経緯を学べ

はじめに

平成13年度よりスタートした鳥羽少年探偵団。中学教諭や一般市民扮する明智小五郎の「指令」に基づき、中学生が地域にゆかりのある人物や場所を探索します。生徒自身が地域の歴史を掘り起こし、教科書では学べない教材に触れることがねらいです。鳥羽市ゆかりの偉人について調査・体験学習を通して、その足跡を市広報などで地域に広めることで地域資源の一つとして活かしていきます。第7期目となる平成19年度は市内5中学校9人の団員と明智小五郎役を迎え8月に結成しました。今期は、鳥羽で生まれ、慶應義塾大学で教頭、評議員として福澤諭吉を支えたあと、保険事業を生み出し、鳥羽の奨学基金団体を創設した門野幾之進を調査しました。



結団式

日時：平成19年8月18日(土)
場所：東京都内 慶應義塾大学三田キャンパス

慶應義塾大学の三田キャンパスにある図書館の一室で結団式を行い、門野幾之進の孫、門野進一さんから任命書が明智小五郎役の大木信幸さんと9人の団員たちに授与され、第7期少年探偵団が誕生しました。団員たちは、それぞれの抱負を語りました。



第1回学習会(県外調査)

日時：平成19年8月18日(土)

場所：東京都内 慶應義塾大学三田キャンパス

結団式終了後、門野進一さんから幾之進の生い立ちや業績についてのお話ををしていただきました。進一さんの生まれた9ヶ月後に幾之進が亡くなつたため、直接の記憶はないとおっしゃっていましたが、最初の跡継ぎだったので、非常に喜んでいたという。進一さんのお話を聞いた団員たちは、幾之進が幼いころから英才教育を受け、自分たちと同年代の頃には東京に出て先生になるなど「鳥羽出身でこんなすごいことをしている人がいるなんて知らなかつた。」と驚きの連続で深く興味を抱いた様子でした。お話を聞いた後、日本最初の演説会堂の三田演説館に移動し一人ずつ演説台で感想や抱負を語りました。



進一さんのお話

- ・幾之進が書いた本は少ないが、後進の育成に尽力した。
- ・幾之進の「進」は後ずさりせず常に前進しろ！という意味でつけられた。
- ・福沢諭吉は本当に学問の才能があった。人の書いた書物や外国から仕入れた書物を読む時間がなかった。その代わりを務めたのが幾之進。
- ・人柄はおだやかで子煩惱だった。
- ・日露戦争の遺族を見て、保険会社の設立を決意した。

第2回学習会

日時：平成19年9月30日(日)

場所：鳥羽市街(歴史文化ガイドセンター、ミキモト真珠島、市民文化会館)

午前9時30分、鳥羽マリンパークに集合し、向かい側に建つ鳥羽市歴史文化ガイドセンターで第2回学習会を行いました。同センターは門野幾之進の生家跡に建っており、幾之進が設立した千代田生命の事務所として使われていました。2階には門野家にゆかりの資料が多数展示してあり、鳥羽市教育委員会文化財専門員の野村史隆さんからお話を聞きました。



その後、ミキモト真珠島を訪ね、島内を見学して回りました。



午後からは、同日に鳥羽市民文化会館で開催された「潮騒フェスティバル」に出演しました。第3期鳥羽少年探偵団が調査した三島由紀夫と「潮騒」。今回第3期の団員と共に演じ、会場で「潮騒」にまつわるクイズを出しました。

問題、初江の兄弟は何人か？ 答え、男1人と女4人

問題、歌島丸が台風にあったのはどこか？ 答え、沖縄の運天 など



第3回学習会

日時：平成20年2月2日(土)

場所：鳥羽市立図書館、光岳寺

第1、2回学習会で門野幾之進について調査を行ってきたことを、明智小五郎役の大木信幸さんとともに振り返り、思い思いにまとめていきました。

午後からは鳥羽3丁目の光岳寺にある幾之進のお墓を訪ねました。お墓は境内の中でも高いところにあり、鳥羽城跡を一望できる見晴らしの良いところに建てられていました。



第4回学習会

日時：平成20年3月22日(土)

場所：インフォメーションセンター遊民

今期最後の少年探偵団の学習会は地球塾との共催で伊勢志摩鳥羽で自然体験エコツアーや実施している海島遊民くらぶの事務局があるインフォメーションセンター遊民で開催しました。1年間を振り返って調査してきたことを発表しました。幼い頃にオランダ語を覚え、東京に行ってから2年間で英語を覚えるなど、すごい偉人が鳥羽にいたんだな、と感想を述べていました。

その後は地球塾生と調査・学習してきたことを覚えているか質問会を行いました。



た。最後に松月講師より総評をいただきました。今期の活動を終えました。

「江戸～明治時代は自分よりも人のためという考えだった。まさに門野幾之進の精神です。御木本幸吉も同じように真珠を売って自分だけが裕福になるのではなく、日本(世の中)を豊かにすることが目的でした。人のためにということを強く心に刻んでおいてください。」

